



WAKASA 20th ANNIVERSARY

広報わかさ 若狭町制20周年記念号

まちの歩みとともに20年 その歴史は未来への礎

平成17年3月31日、三方郡三方町と遠敷郡上中町の合併により誕生した若狭町。

豊かな自然や産業が息づくこの町は今年、誕生から20年の節目を迎えます。

先人たちが紡いできた歴史や文化に加え、

新たな価値を生み出そうとする若者たちの挑戦が原動力となり、

今まさに、次の20年に向けて歩み出します。





私たちは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

ごあいさつ

若狭町は、平成17年3月31日に三方町と上中町が合併して誕生し、豊かな自然環境や歴史文化を大切にしながら、協働のまちづくりを推進することによって発展を遂げてまいりました。

町制20周年の節目を迎えるにあたり、本町の礎を築いてこられた先人の弛まぬ努力に対し、敬意を表するとともに、町民の皆様や関係各位のご尽力の賜物と深く感謝申し上げます。

今年度は、記念式典をはじめ記念事業や各団体による記念イベントが、年度を通して多彩に実施され、10月にはつながりを実感し課題解決に取り組む「わかさSDGsウィーク」を開催いたしました。

人口減少の抑制や新型コロナウイルス対策、持続可能なまちづくりを進めることによって、誰もが安心して暮らすことができ、次代を担う若者や子どもたちを育む若狭町として、これからも歩み続けます。

世界に誇る三方五湖や熊川宿、地域の魅力を最大限に活かしながら、「将来も住み続けられ、心ゆたかで幸せな暮らしの実現」を目指してまいりますので、皆様方のより一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



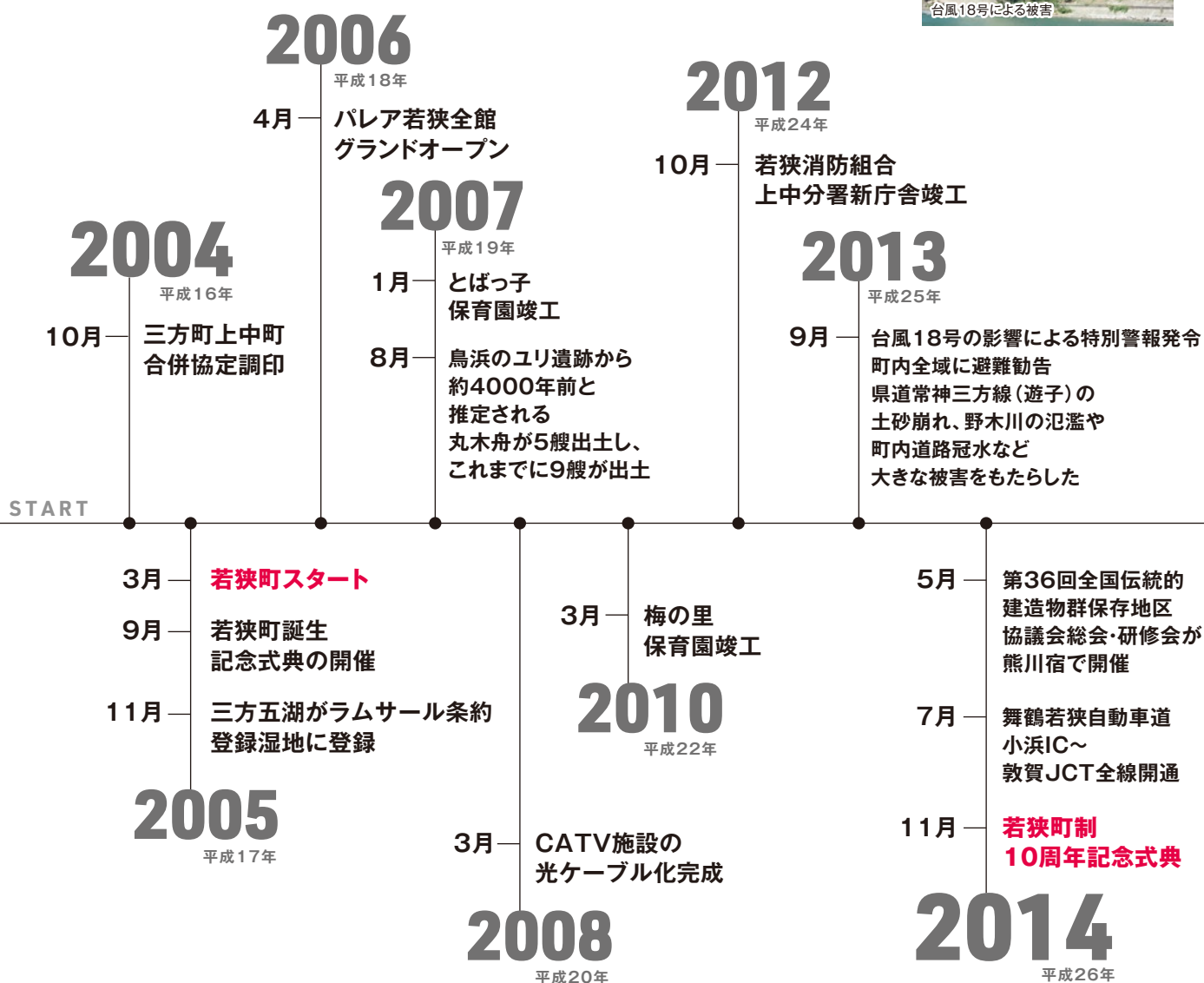
若狭町長

渡辺 英朗



若狭町20年の軌跡

まちの誕生と発展 2005-2025





2015

平成27年

3月 道の駅「三方五湖」竣工

4月 「海と都をつなぐ若狭の往来文化遺産群～御食国若狭と鯖街道～」が日本遺産第1号に認定

2018

平成30年

10月 徳仁皇太子殿下(今上天皇)が福井県年縞博物館をご視察

2020

令和2年

3月 レインボーライン山頂公園に「天空のテラス」オープン

2022

令和4年

4月 ブライダルミュージアム「YUMI KATSURA MUSEUM WAKASA」オープン

2024

令和6年

7月 「御食国若狭と鯖街道」全国初日本遺産プレミアムに選定

11月 若狭町制20周年記念式典

FUTURE

3月 若狭瓜割エコビレッジ竣工

2016

平成28年

2月 三方五湖が日本農業遺産に認定

6月 河内川ダム竣工

2021

令和3年

5月 新型コロナウイルスワクチンの集団接種が開始

2025

令和7年

10月 アウトドア複合施設「山座熊川」オープン

2023

令和5年



🕒 まちの歴史を刻んで20年

若狭町で暮らし、その魅力を育み、歴史を紡いできた、世代も背景もさまざまな町民たち。それぞれの視点から語られるのは、町の施策、施設、イベント、日々の活動、そして心に残る出来事。当時を振り返りながら、未来への想いを語っていただきました。

PICK UP HISTORY

2005年（平成17年）**11**月



福井県初、三方五湖が ラムサール条約湿地に登録

若狭町と美浜町をまたがる三方五湖は、ウガンダで開催された第9回ラムサール条約締約国会議において、県内初となるラムサール条約に登録され、国際的に重要な湿地として認められました。古くから生息するハスなどの希少な魚類の存在や、五つの湖それぞれに塩水、汽水、淡水といった異なる湖水環境が多様な生態系を育む特異な湿地として評価されました。

2006年（平成18年）**4**月



福祉・保健・文化の総合施設「パレア若狭」 全館グランドオープン

若狭町市場に音楽ホール、図書館、運動施設などを併設した福祉・保健総合拠点施設が開館。セレモニーには千田町長ら約200人が出席し、上中中、三方中のブラスバンド演奏などでグランドオープンを祝いました。音楽ホールのピアノ開きでは、福井市出身の国際的ピアニスト・今川裕代さんが嶺南初導入となるピアノの名器スタインウェイを演奏し、鳥羽小児童が合唱を披露。町民と共に門出を喜びました。

2014年（平成26年）**7**月



若狭路の新たな動脈 舞鶴若狭自動車道が全線開通

若狭路へのアクセス向上、観光促進、産業振興の大きな期待を背負い、未供用区間だった小浜ICから敦賀JCT間約39kmが開通。中国自動車道の吉川JCT（兵庫県）から敦賀JCTまでの全線162kmがつながりました。この開通により中国道、北陸道、名神高速道の広域高速交通網が確立。三方五湖PAでは開通イベントが開催され、約15,000人の関係者が集まり、開通を祝いました。

6
EPISODE2005 → 2014
WAKASACHO HISTORY

INTERVIEW

日本野鳥の会福井県
代表 小嶋明男さん

地域みんなで五湖周辺の自然と野鳥を、未来へつなぐ

40年にわたり三方五湖周辺の野鳥を観察してきました。冬になるとコハクチョウが飛来し、その美しい姿は町民らを魅了しています。長年、探鳥会を開催し、参加者に野鳥の観察を通して、自然とのつながりも伝えています。2018年に、三方五湖自然再生協議会環境教育部会が主催し、地元の小中学生向けの「三方五湖子どもラムサールクラブ」を立ち上げました。私はその代表も務め、38年間の教師経験を活かし、未来を担う子どもたちが地域の宝である五湖の自然を守り、次世代へ受け継いでいけるよう、年間を通して生き物調査などのプログラムを実施しています。子どもたちが五感を使って自然を体験することで、動植物への興味や関心を深め、自然環境を守りたいという気持ちを育んでもらえるように活動が続けていきます。

ミズノスポーツサービス株式会社
フィットネスパレア若狭
支配人・健康運動指導士
水江真也さん

町民が100歳まで元気に！多世代の健康づくりをサポート

「フィットネスパレア若狭」は、「パレア若狭」の開館時から運営を続けています。ミズノ専属トレーナーの私たちの目標は、利用者の健康寿命を延ばす健康づくりと、体力向上。一人ひとりに合わせた運動プログラムを提案し、健康管理をサポートしています。現在、利用者は330名。そのうち7割が若狭町の方々です。中にはオープン当初から約20年間、ずっと通ってくださっている方も。80代の方には、100歳になっても元気に動き続けられるようなメニューを提供しています。また、子ども向けのスポーツ塾も開講中です。地域密着型の軽体操機能訓練施設として、幅広い年代の方々にスポーツをもっと楽しんでもいただき、健康的な生活を送れるよう貢献していきたいです。

旅の宿ふじはらや
海もぐら
代表 藤原雅司さん

愛する若狭の海を守り、豊かな恵みを次世代に残したい

祖父の代から世久見で53年間続く民宿と漁業を営んでいます。幼い頃から海が大好き。25年間の漁師生活で、近年は沿岸海域のアワビなどの漁獲量が減少しています。危機感を持った常神や神子などの素潜り漁師で、2021年に海を守る有志団体「海もぐら」を立ち上げました。今は20代から40代の14人が、藻場を回復させるためムラサキウニの駆除など、海の資源保護と再生を目指し活動しています。舞鶴若狭自動車道、神子、常神トンネルが開通したことで、交通の便が良くなり、地域の活性化が期待されています。そんな中、大人が楽しんで活動する姿は子どもたちにとって良い影響を与え、地域や海への愛着を育むきっかけになると思います。豊かな海を次世代につなぎ、漁師の担い手不足解消にも貢献できるよう、地道に活動を重ねていきます。

まちの歴史を刻んで20年

PICK UP HISTORY

2016年（平成28年）**3**月



名水と緑に囲まれた住環境 「若狭瓜割エコビレッジ」誕生、分譲開始

名水百選「瓜割の滝」周辺の自然豊かな天徳寺に、地元住民、自治体などが協力し、エコ住宅団地「若狭瓜割エコビレッジ」を開発。約1万5千平方メートルの町有地を活用した全26区画は、6月から分譲が開始されました。目指したのは、自然エネルギーを活用したエコな暮らし、若者の定住、多世代共生のコミュニティ形成です。記念式典には、森下町長や地区民ら約200人が集まり、新住宅地の完成を祝いました。

2022年（令和4年）**4**月



日本初のブライダルファッション・ミュージアム 「YUMI KATSURA MUSEUM WAKASA」がオープン

世界的なブライダルファッションデザイナー桂由美さんが手がけた名作ドレスが集まるミュージアムが4月21日、北前川に開館。オープンに先駆け19日に行われた開館式典には、桂さん、杉本知事、渡辺町長ら約60人が出席し、テープカットで完成を祝いました。2階建ての館内には、五木ひろしさん夫妻ら著名人が結婚式で着用した衣装など、約60点の貴重なドレスが華やかに展示されています。

2024年（令和6年）**7**月



日本遺産「御食国若狭と鯖街道」、 全国初の「日本遺産プレミアム」選定

小浜市と若狭町の日本遺産「海と都をつなぐ若狭の往来文化遺産群～御食国若狭と鯖街道～」が、全国で初めて「特別重点支援地域（日本遺産プレミアム）」に選定されました。地域住民の積極的な観光拠点づくりや商品開発、そして文化資源を生かした地域活性化への取り組みなどが高く評価されました。鯖街道の宿場町「熊川宿」がある若狭町は、喜びに包まれました。

6
EPISODE2015 → 2024
WAKASACHO HISTORY

INTERVIEW



津田祥平・冬菜 さんご家族

自然の中でのびのび子育て、温かいコミュニティがここに

「若狭瓜割エコビレッジ」に居を構えて6年。結婚後、小浜市で暮らしていた私たちが移住を決めたのは、妻の実家が若狭町にあったことがきっかけでした。周囲の勧めもあり、この地での新生活に胸を躍らせたのを覚えています。町内中心部には、瓜割の名水を汲む共同水汲み場があって、その清水は日々の生活に潤いを与えてくれます。3人の子どもたちは、遊具がある「子どもの森」や水遊び場がすぐそばで大喜び。保育園や小中学校も近く、子育て世代には嬉しいポイントです。実際、同世代が多く、区民の皆さんは親しみやすい方ばかり。豊かな自然の中、地域の人たちに見守られながら、安心して子育てができる環境に満足しています。地区の祭りや行事を通じて、幅広い世代の方々と交流できるのも、この地ならではの魅力です。



美方高校生活情報科2年生

内山田蘭夏さん(右)
米澤萌生さん(左)

学びと誇りを胸に、地域を盛り上げたい

1年生の時、ミュージアムに隣接する「アルファブランカ」さんの縫製工場を見学し、職人さんたちの素早く丁寧な手仕事が忘れられません。地元こんなに素晴らしいものづくりを行う会社があることを誇りに思います。昨年10月、若狭町制20周年を記念して開催されたSDGs推進イベント「わかさSDGsウィーク」。私たちは同社の協力のもと、廃棄予定だったドレスをリメイクし、敷地内のミュージアムでショーを行いました。工夫を凝らしたドレスを着用し、ランウェイを歩くと、来場者の方々から温かい反応をいただき嬉しかったです。この経験からものづくりの楽しさを学び、また、地域の方々との交流を通して、町への愛着が深まりました。今後は私たちができることを通して、若狭町の魅力を町内外へ積極的に発信していきたいです。



若狭熊川宿まちづくり特別委員会

会長 宮本哲男さん

鯖街道熊川宿のさらなる魅力づくりを目指す

熊川で生まれ育ち、「若狭熊川宿まちづくり特別委員会」の活動に携わって13年。2015年に会長に就任したその年に、「御食国若狭と鯖街道」が日本遺産に認定されました。そして2024年には特別重点支援地域に選定され、嬉しい限りです。この素晴らしい結果に繋がったのは地元住民、行政、民間事業者が鯖街道を誇りに思い一丸となって、地道な活性化の取り組みを続けてきたからに他なりません。景観整備、空き家活用、イベント開催など、できることを少しずつ、でも着実に積み重ねてきました。選定後、観光客やメディアからの熊川宿への注目度は格段に高まっています。来訪者も増え、宿場館の利用者は5割増となりました。今後も力を合わせて創意工夫を凝らしながら熊川宿の魅力づくりを行い、訪れる人を魅了し続けたいです。

若狭町メイドのものづくり・産業

若狭町に新たな風を吹き込む、ものづくりのクリエイターや、クリエイティブに経営するキーパーソン。

培われた技術と知識を活かし、ユーザーの気持ちに寄り添いながら、常に新しい価値を生み出すことを目指しています。



ALPHA BLANCA ST

ドレス職人 前田梨花さん(左) 西沢愛莉華さん(右)

花嫁の最高の幸せを 彩るドレスを、心を込めて

輝く花嫁を演出する、優雅なシルエットと気高い美しさ。ブライダル総合メーカー「アルファブランカ」は、日本のブライダル界を牽引し続けた桂由美さんがデザインするウェディングドレスを製造する唯一のメーカーとして、37年の歴史を紡いできました。高度な技術を要する要望にも熟練の職人技で応え、ドレスに桂さんの魂を吹き込んできました。2024年、北前川の縫製工場「アルファブランカ ST」に入社した西沢さんと前田さん。二人の若き職人は、日々腕を磨いています。一着のドレスは裁断、縫製、特殊、仕上げ。各工程を職人が分業し、手作業で丁寧に仕立てます。数々のテクニックを駆使し、80時間かけて作るドレスもある

そう。西沢さんは、レースやビーズなど装飾を施す特殊工程を担当。前田さんは、デザイナーのデザイン図から布を裁断するための型紙(パターン)を作成します。「細心の注意を払って身頃にレースをのせる作業の後は、出来た!と心が弾みます。試行錯誤の繰り返しですが、やりがいがあります」と西沢さん。前田さんは「各パーツが立体になり、ドレスの形になった時は感動します。常に向上心を持って、着実にステップアップしていきたいです」と目を輝かせます。全ての工程を一人で担えるようになるには、10年以上の修練が必要と言われています。二人は口を揃えて「いつかドレスづくりを極めたい」と意気込みます。



TOPIC 若狭の地で、ハイクオリティな職人技を

「アルファブランカ」(京都市)創業者、坂下志郎さんは小浜市出身。その縁で1989年、隣接する若狭町に縫製工場「アルファブランカ ST」を設けました。「美しいものは美しい工場でしか生まれない」というものづくりへの想いが込められた、グッドデザイン賞に輝いた生産拠点では、職人たちが高い技術で優美なドレスを生み出し続けています。



DEKITA

代表取締役 時岡壮太さん

熊川宿の魅力アップに挑む 持続的な事業をクリエイト



山々に抱かれ、前川のせせらぎが響く熊川宿でオフィスを構える「デキタ」。代表取締役の時岡さんは、おおい町出身。東京で起業し、築地場外市場の施設開発などを手がけてきました。しかし、大学時代から心の奥底には過疎地や山村の地域課題への想いがあったそう。そんな時、若狭町役場の職員との出会いを機に熊川宿へ。2018年、築140年の古民家を再生し「街道シェアオフィス & スペース菱屋」をオープン。翌年には、東京から熊川へと会社を移転させました。時岡さんが目指すのは「歴史ある文化資源を活かし、持続的な地域経済の循環を生むこと」。増え続ける空き家の有効活用、そして農産品を活かした魅力的な商品や地域文化を体験できるサービ

スの開発に日々情熱を注いでいます。2020年には、古民家を改修した宿泊施設「八百熊川」を開業。空き家再生と地域活性化の取り組みが評価され、2021年度「ふるさと名品オブ・ザ・イヤー」の地方創生賞に選ばれました。2021年には若狭町とデキタを含む民間企業4社が出資した「クマツグ」を設立。複合アウトドア施設「山座熊川」も開発・運営しています。「今後も訪れる人が楽しめるような宿や飲食店を増やしていきたい」。そのため、社員の増員を計画中で「若い世代が町でやりがいを感じながら活躍できる場所をつくりたいです」と力を込めます。住民と力を合わせ、地域が目指す将来像を共有しながら、新たな魅力を創造しています。



TOPIC 伝統食材を新たな個性で輝かせる

デキタでは生産者と共に、若狭町ならではの食材を活かし、オリジナル商品を開発しています。江戸時代から生産されている熊川葛の葉などを焙煎した「熊川葛の葉茶」や、伝統野菜山内かぶらの種を使った「和食に合う粒マスタード」。どちらも町内外の方々に愛されるお土産品として広めることで、伝統の存続と、新たな担い手を増やしたいという想いが込められています。

第2次若狭町総合計画

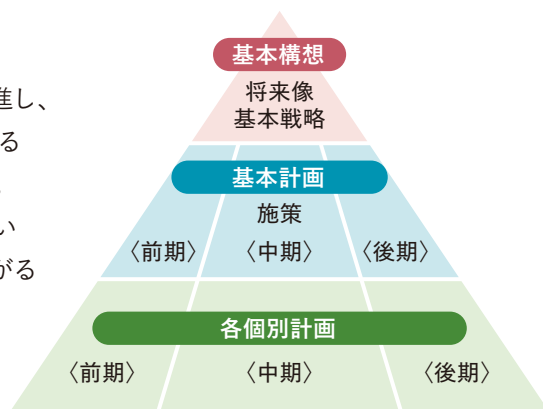
基本構想 まちの将来像

【期間:平成30(2018)年度～令和14(2032)年度の15年間】

基本構想は、「まちの将来像」として、若狭町の将来を展望し、将来ビジョンを示すと共に地域発展に向けた基本戦略を明らかにし、総合的かつ計画的な行政運営の指針を示すものです。

新しい感動と笑顔がひろがるまち

これからの若狭町のまちづくりを担っていく若者世代の移住、定住を促進し、地域で活躍することによって生まれていくまちづくりや、交流の拡大による地域の活性化や新たな出会いは、「新しい感動」として広がっていきます。人と人、人と自然などのつながりによって、これまで築いてきた住みやすい町を、10年後、20年後も、私たちや私たちの子や孫の世代の「笑顔」広がるふるさととして続いていくよう、守り、育んでいきます。大切なふるさとに住み続けられるよう、活力あるまちづくりを進め、「新しい感動と笑顔がひろがるまち」を創造していきます。



「将来像」の実現に向けて、**3**つの「基本戦略」を設定しています。

活力を育む交流を 拡大する

若狭町固有の地域資源を活用することによって、交流人口を拡大させ、若狭町に関わってくれる人を拡大していきます。それによって活力あるまちづくりを進めます。

次世代の活動環境を 創造する

次代を担う若者たちへの支援に重点をおき、生産年齢人口を増加させることにより、少子高齢化に対応した住民福祉の提供と地域の活性化を図ります。

地域の力を 高める

自分たち(地域)のできることは、自分たちで実施し、自助・互助・共助・公助のまちづくりを展開し、まちづくり推進の土台を形成し、「自立」と「協働」のまちづくりを推進します。

中期基本計画

【期間:令和5(2023)年度～令和9(2027)年度の5年間】

基本計画は、将来像や中期基本計画目標を達成するための施策方針です。

中期基本計画の目標として「将来も住み続けられ、心ゆたかで『幸せ』な暮らしの実現」を設定し、住民、地域が「幸せ」を実感し、安定した生活を営むために7つの政策目標を掲げます。また、各政策目標に対する政策、施策をそれぞれ設定し、各事業を展開していきます。

基本計画の全文は、
若狭町ホームページで公開しています



中期基本計画目標

将来も住み続けられ、
心ゆたかで「幸せ」な暮らしの実現

政策目標

将来にわたって町民が安心して暮らせる社会を実現するため、
長期的な視点に立った総合計画を策定し、7分野における政策目標を掲げています。

> 産業・雇用



魅力あふれる産業で、 「幸せ」に暮らせるまちへ

新しい産業・ビジネスの創出や民間事業者の誘致により、町の魅力を高め、住民が幸せを実感でき、地域経済の好循環を実現するための取り組みを進めていきます。町が誇る自然や名所等の観光資源、歴史遺産や豊かな食などをブラッシュアップし、PRすることにより、観光客滞在時間の延長および旅行消費額の拡大につなげ、稼げる観光地づくりを目指します。農林水産業の担い手育成を図り、地域資源の魅力を高めつつ、経営の効率化・安定化を図ります。



> 生活



安全・安心を協働で築く 「幸せ」なまちへ

快適に暮らせる住環境の実現のため、上下水道環境、道路環境、地域公共交通を維持・充実し、情報通信環境整備、廃棄物処理の集約化・効率化を進めることで、住民の満足度の向上を目指します。また、上中駅前のスマートエリア開発をはじめとする魅力ある住宅地を供給し、若者のU・Iターンや定住を目指します。地域の安全・安心を確保するために、行政、個人、家庭、地域、企業、団体等の防災・防犯意識を高めるとともに、連携体制の整備を図ります。



政策目標

＞ 福祉・健康



「幸せ」の中で誰もが自分らしく 元気に暮らせるまちへ

人生100年時代、健康寿命の延伸を目指し、誰もが元気に活躍できるよう、ライフステージに応じた取り組みを行い、生まれる前から高齢期までの一生涯にわたる健康づくりを推進します。住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく地域共生社会の実現を目指し、これまで以上に地域における見守りや支え合い体制を構築し、地域全体で助け合う機運を高めます。



＞ 子育て・教育



親子が笑顔で過ごせる 「幸せ」いっぱいのまちへ

子どもを取り巻くあらゆる環境を視野に入れ、妊娠期から子育て期にわたって切れ目のない支援をすることで、子どもの健やかな成長を町全体で後押しします。将来、夢や希望を実現し、社会や地域の担い手として活躍できるように、主体的に活動し、新たな価値を創造できるような協働的な学びを充実します。子どもの「自ら学び成長しようとする力」を育むため、豊かな自然に接する機会を設け、自然環境や地域資源を活かした体験活動を推進します。



＞ 地域づくり



「幸せ」あふれる集落で いつまでも住み続けられるまちへ

地域活動を行う各種団体や地域コミュニティ活動への支援を推進し、人と人をつなぎ、互いを支え合い、住民と地域社会を元気にする取り組みを進めていきます。学校でのふるさと学習や体験活動を通じて、地域の人々と関わりを持ち、郷土を理解することで、郷土への誇りや愛着心を持つ心豊かな子どもの育成を図ります。人口減少対策に取り組み、若者や子育て世代の移住・定住につながる施策を展開していきます。

> 自然・文化



自然・文化を楽しむ「幸せ」とともに 未来へ引き継ぐまちへ

文化芸術を身近に感じ、誰もが健康で文化的な生活を実感できる機会を増やしていくため、文化芸術活動による住民の交流と地域の活性化を促進します。文化遺産を身近に感じてもらう仕組みづくりと地域内外へ情報発信をします。気候変動の原因となる温室効果ガスの抑制のため、脱炭素社会の実現に向けた取り組みを実施します。



> 行政



最良の行財政運営で 「幸せ」が実現できるまちへ

住民のニーズを的確に把握した上で、最適なデジタル技術を用いて、住民の利便性の向上と行政事務の効率化を進めます。健全な財政運営の継続のため、事務事業やイベント、各種料金等の見直し、ふるさと納税の推進など短期的な目標のほか、公共施設等の適正な配置と運営方法など中長期的な課題を掲げ、行財政改革を継続して推し進めます。



若狭町制20周年ロゴマークについて

20周年記念ロゴマークは、令和3年11月から募集を行い、419点の応募作品の中から選ばれました。

若狭町の特産品である「福井梅」をイメージした鮮やかなピンク色でデザインされており、梅の花が集まる様子や中央の梅の実が、人々のつながりや町の賑わい、そして未来への希望を表しています。

作成した横山さんは、「このロゴマークが20周年という節目を盛り上げることに貢献できれば嬉しい」と話していました。

作成者：横山勇太さん（青森市）



幸せあふれる若狭町へ



発行 若狭町 発行年月 令和7年(2025年)3月
〒919-1393 福井県三方上中郡若狭町中央1-1 TEL.0770-45-1111

<https://www.town.fukui-wakasa.lg.jp>